

教 学 の 手 引 き

2011

教育人間学専攻

文学部



# Table of Contents

## 教育人間学専攻

---

<b>I</b>	教育人間学専攻 教学紹介	
①	教育理念・目標 .....	3
②	履修の仕方について .....	3
③	履修モデル .....	5
④	科目概要 .....	9
⑤	研究入門について .....	11
⑥	卒業論文 .....	20
<b>II</b>	科目一覧と履修方法	
①	科目一覧 .....	28
②	履修方法 .....	29

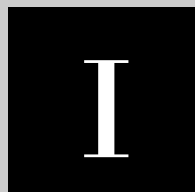
### 「教学の手引き」の使い方

「教学の手引き」は、専攻・プログラムにおける皆さんの学びの指針となるものです。  
毎年配布される履修要項とあわせて、履修に役立ててください。

この「教学の手引き」は、皆さんが卒業するまで使用するものです。  
再配布はしませんので、大切に保管してください。

記載内容に変更・追加がある場合は文学部ホームページ（URL：[http://www.ritsumeijp/lt/lt07\\_j.html](http://www.ritsumeijp/lt/lt07_j.html)）や掲示で随時発表しますので、定期的の確認をしてください。





教育人間学専攻 教学紹介



## 1 教学理念・目標

「いったい人間とは何なのでしょう」、「なぜ人間には教育が必要なのでしょう」、「心とはいかなるもので、その心を育てるとはどういうことなのでしょう」、「精神的に健康に生きるとはどのように生きることなのでしょう」。

私たちは現代教育の危機的状況に取り組むために、もう一度こうした根源的な問いかけから始め、遠い過去から現代に至るまで連綿と続けられた先人たちの人間探究の成果を辿りなおすと同時に、今まさに私たちの目の前で起こっている日々の現実から学ぶ必要があるといえるでしょう。

本専攻は、基礎的理論に関わる領域としての「人間形成」、現代的課題もしくは実践的課題に関わる領域としての「臨床教育」、さらに総合的な人間発達に関わる領域としての「心理健康」という緊密に連携した3領域の専門スタッフと、各領域に対応した実習室を備え、皆さんが幅広い視野から「教育人間学」を学ぶことのできる環境を整えています。

本専攻が養成する人材像は次のとおりです。

- (1) 既存の学問的・社会的通念を批判的に問い直すなかで、新たな「心の教育」の可能性を理論的・実践的に探究することができる。
- (2) 「人間形成」、「臨床教育」、「心理健康」という3つの観点から、多面的に人間・教育・心について考察することができる。
- (3) 実験や実習により身に付けた知識と技能を将来実践に活かすことができる。
- (4) 教員や仲間との議論や交流を通して自分自身の見識に磨きをかけ、さらに自らの身体や心を体験に投じることによって、独自の人間観、教育観を育むことができる。

## 2 履修の仕方について

本専攻の学生は、専攻科目の履修はもとより人文科学全般に渡る幅広い教養と、卒業論文執筆に必要な専門的知識と技能を身に付けることが期待されます。また、将来教育臨床現場で仕事に就くことを希望している学生は、積極的にイノベーション副専攻（学校教育臨床コース）を履修し、実践に則した内容を学ぶことが可能です。

各学年で履修が期待される科目を以下に示しますが、この他各自の関心に合わせて科目を自由に選択し、学びの幅を広げてください。

### 1 回生

(専攻科目) 教育人間学研究入門、教育人間学概論、リテラシー入門

(その他科目) 教養科目A群：思想と人間、現代と文化より哲学、心理学、教育学、宗教学に関するもの。人文科学総合講座より「宗教学概論Ⅰ・Ⅱ」など。

### 2 回生

(専攻科目) 教育人間学基礎講読、教育人間学実習Ⅰ、教育人間学外書講読、教育人間学研究法、学校カウンセリング論

(その他科目) 人文科学総合講座より「子ども学」「人間関係論」「人間学（心と身体）」など。心理健康領域で実験を行う学生は、心理学科の「心理学統計法」を履修することが望ましい。

### 3 回生

(専攻科目) 教育人間学実習Ⅱ、教育人間学演習Ⅰ、教育人間学特殊講義

(その他科目) 教養科目A群より「宗教と社会」「メンタルヘルス」など。

### 4 回生

(専攻科目) 教育人間学演習Ⅱ、卒業論文

また、教職科目は要卒単位には含まれません（「(教) 教育心理学」「(教) 生徒・進路指導の研究Ⅰ」は例外）が、教育人間学に関わる科目が数多くあるので、教職免許を取得しない学生も関心のある科目を受講するとよいでしょう。

1 回生：「教育心理学」「教育社会学」など。

2 回生：「教育相談の研究（教育相談の研究Ⅰ）」「生徒・進路指導の研究（生徒・進路指導の研究Ⅰ）」「道德教育の研究（道德教育の研究Ⅰ）」「教育思想」「教育方法論（教育方法論Ⅰ・Ⅱ）」など。

3 回生：「教育史」「生徒・進路指導論Ⅱ」など。

### 3 教育人間学専攻履修モデル

モデル1：人間形成  
教育人間学専攻で、人間形成領域を中心に学び卒業論文を執筆する。

セメスター		科目種別						
回数	生	講義	外書講読	実習	演習	教養・他専攻・人文科学総合講座(履修例)	教職科目	その他
1	回生	教育人間学概論Ⅰ	教育人間学概論Ⅲ	教育人間学概論Ⅴ		哲学と人間(養)	教育心理学	リテラシー入門 (登録必修)
		教育人間学概論Ⅱ	2 (登録必修) 教育人間学概論Ⅳ	教育人間学概論Ⅵ	研究入門 (通年) (登録必修)	心理学入門(養)	教育社会学 教育原理	
2	回生	教育人間学研究法Ⅰ	教育人間学研究法Ⅲ	教育人間学研究法Ⅴ	外書講読A	論理と思考(養)	教育思想 教育方法論 教育史	
		教育人間学研究法Ⅱ	2 (登録必修) 教育人間学研究法Ⅳ	教育人間学研究法Ⅵ	外書講読B 1 (必修)	人間性と倫理(養)		
3	回生	特殊講義Ⅰ	特殊講義Ⅲ	特殊講義Ⅴ	外書講読C	自然と進化(養)		外国文化講読 (登録必修) ※2008年度以前 入学生のみ
		特殊講義Ⅱ	2 (登録必修) 特殊講義Ⅳ	特殊講義Ⅵ	外書講読D	西洋思想Ⅰ(人文)		
4	回生					東洋思想Ⅰ(人文)	教養科目(養) 人文科学総合講座科目(人文) 学際プログラム科目(学際)	卒業論文 (必修)
						子ども学(人文)		
7	回生					科学と技術の歴史(養)		
						比較文化講義(学際)		
8	回生					演習Ⅰ(通年) (登録必修)	演習Ⅱ(通年) (必修)	

■ 必修科目：卒業するために必ず単位を修得しなければならない科目

■ 登録必修科目：必ず登録・受講しなければならない科目

上表はあくまで履修モデルです。この通り履修する必要はありませんし、この通り履修してもすべての単位や希望資格を取得できるわけではありません。皆さんの関心に応じ、他の科目も自由に履修してください。

モデル2：臨床教育  
教育人間学専攻で、臨床教育領域を中心に学び卒業論文を執筆する。

セメスター		科 目 種 別							
回	生	講 義		外書講読	実 習	演 習	教養・他専攻・人文 科学総合講座(履修例)	教職科目	その他
1	回 生	教育人間学概論Ⅰ	教育人間学概論Ⅲ	教育人間学概論Ⅴ			社会学入門(養)	教育心理学 教育社会学 教育原理	リテラシー入門 (登録必修)
		教育人間学概論Ⅱ	2(登録必修) 教育人間学概論Ⅳ	教育人間学概論Ⅵ		研究入門(通年) (登録必修)	心理学概論(心) 自然と進化(養) 宗教学概論(人文) 社会と福祉(養)		
2	回 生	教育人間学研究法Ⅰ	教育人間学研究法Ⅲ	教育人間学研究法Ⅴ	外書講読A	教育人間学実習Ⅰ (必修)	現代の教育(養)	教育思想 教育史	学校教育研究(イ)
		教育人間学研究法Ⅱ	2(登録必修) 教育人間学研究法Ⅳ	教育人間学研究法Ⅵ			映像と表現(養) 人間関係論(人文) 人文科学特別研修(人文) 子ども学(人文)		
3	回 生	特殊講義Ⅰ	特殊講義Ⅲ	特殊講義Ⅴ	外書講読C	教育人間学実習Ⅱ (登録必修)	児童文化論(人文)	教育方法論 教育相談の研究Ⅰ	外国文化講読 (登録必修) (※2008年度以前 入学生のみ)
		特殊講義Ⅱ	2(登録必修) 特殊講義Ⅳ	特殊講義Ⅵ			演習Ⅰ(通年) (登録必修)		
4	回 生				外書講読D			教養科目(養) 人文科学総合講座科目(人文) 心理学専攻科目(心) イノベーション副専攻科目(イ)	卒業論文 (必修)
						演習Ⅱ(通年) (必修)			

■ 必修科目：卒業するために必ず単位を修得しなければならない科目

■ 登録必修科目：必ず登録・受講しなければならない科目

上表はあくまで履修モデルです。この通り履修する必要はありませんし、この通り履修してもすべての単位や希望資格を取得できるわけではありません。皆さんの関心に応じ、他の科目も自由に履修してください。

モデル3：心理健康  
教育人間学専攻で、心理健康領域を中心に学び卒業論文を執筆する。

Semester		Course						
回	生	講義	外書講読	実習	演習	教養・他専攻・人文科学総合講座(履修例)	教職科目	その他
1	回生	教育人間学概論Ⅰ			研究入門(通年) (登録必修)	生物の多様性(養) 心理学概論(心) 自然と進化(養) 宗教学概論(人文) 社会と福祉(養) 人間学(人文)	教育心理学	リテラシー入門 (登録必修)
		教育人間学概論Ⅱ	教育人間学概論Ⅲ 2(登録必修)	教育人間学概論Ⅳ				
2	回生	教育人間学研究法Ⅰ	外書講読A	教育人間学実習Ⅰ (必修)	基礎講読(通年) (登録必修)	心理学統計法(心) 人間関係論(人文) 人間と宗教(学際) 子ども学(人文)		
		教育人間学研究法Ⅱ						
3	回生	特殊講義Ⅰ	外書講読C	教育人間学実習Ⅱ (登録必修)	演習Ⅰ(通年) (登録必修)	現代人とヘルスケア(養) 発達臨床心理学(心) 心理病理学(心)	教育相談の研究Ⅰ	外国文化講読 (登録必修) ※2008年度以前 入学生のみ
		特殊講義Ⅱ						
4	回生	教育人間学研究法Ⅲ 2(登録必修)	学校カウンスeling Ⅰ		演習Ⅱ(通年) (必修)	教育人間学総合講座科目(人文) 心理学専攻科目(心) 学際プログラム科目(学際)		卒業論文 (必修)
		教育人間学研究法Ⅳ						

■ 必修科目：卒業するために必ず単位を修得しなければならない科目

■ 登録必修科目：必ず登録・受講しなければならない科目

上表はあくまで履修モデルです。この通り履修する必要はありませんし、この通り履修してもすべての単位や希望資格を取得できるわけではありません。皆さんの関心に応じ、他の科目も自由に履修してください。

モデル4：学校教員  
教育人間学専攻で臨床教育領域を中心に学びつつ、学校教員になる上で必要な知識と技能を習得する。

セメスター		科目種別						
回数	生	講義	外書講読	実習	演習	教養・他専攻・人文科学総合講座(履修例)	教職科目	その他
1	回生	教育人間学概論Ⅰ	教育人間学概論Ⅲ	教育人間学概論Ⅴ		研究入門(通年)	教育心理学 教育社会学 教育原理	リテラシー入門 (登録必修)
		教育人間学概論Ⅱ	2(登録必修) 教育人間学概論Ⅳ	教育人間学概論Ⅵ		(登録必修)	社会学入門(養) 心理学入門(養) 社会と福祉(養)	
2	回生	教育人間学研究法Ⅰ	教育人間学研究法Ⅲ	教育人間学研究法Ⅴ	外書講読A 学校カウンセリン グ論Ⅰ	教育人間学実習Ⅰ (必修)	教育思想 教育史 道徳教育の研究 教師論	教育心理学演習(イ) 人文科学特別研修(イ)
		教育人間学研究法Ⅱ	2(登録必修) 教育人間学研究法Ⅳ	教育人間学研究法Ⅵ			現代の教育(養) 映像と表現(養) 人間関係論(人文) 子ども学(人文)	
3	回生	特殊講義Ⅰ	特殊講義Ⅲ	特殊講義Ⅴ	外書講読C 学校カウンセリン グ論Ⅱ	教育人間学実習Ⅱ (登録必修)	教育方法論 知的障害教育 肢体不自由教育	外国文化 講読 (登録必修) (※2008年度以前 入学生のみ)
		特殊講義Ⅱ	2(登録必修) 特殊講義Ⅳ	特殊講義Ⅵ			児童文化論(人文) 児童・青年心理学(心)	
4	回生						教養科目(養) 人文科学総合講座科目(人文) 心理学専攻科目(心) イノベーション副専攻科目(イ)	卒業論文 (必修)
							演習Ⅱ(通年) (必修)	

■ 必修科目：卒業するために必ず単位を修得しなければならない科目

■ 登録必修科目：必ず登録・受講しなければならない科目

上表はあくまで履修モデルです。この通り履修する必要はありませんし、この通り履修してもすべての単位や希望資格を取得できるわけではありません。皆さんの関心に応じ、他の科目も自由に履修してください。

## 4 科目概要

### 1. 小集団科目

では、さっそく教育人間学専攻のカリキュラムについて説明しましょう。私たちの立命館大学における専門教育の特徴は小集団教育を採用していることです。教育人間学専攻の場合、1回生の「研究入門」、2回生の「基礎講読」、3回生の「演習Ⅰ」、4回生の「演習Ⅱ」が、これにあたります。また、2回生・3回生の「実習Ⅰ」「実習Ⅱ」も実習科目ながら、小集団教育に準じて、少人数で行います。

#### 「教育人間学研究入門」(コア科目 登録必修)

- ・教育人間学の学問的性質を理解します。  
まず、本専攻の教授陣によって、最新の研究成果が提示されます。教員一人一人が、それぞれ独自の問題意識と方法論によって、どのように教育と人間とにアプローチしているのかをしっかりと体験してほしいと思います。
- ・グループ研究を通して、具体的な研究の進め方を学びます。  
研究発表では班別に自由にテーマを設定し、その学習成果をクラス全体の場で発表・討論することによって、物事に対する多面的な見方や共同で一つの研究を創造していくことを学習します。
- ・教育人間学の基礎文献に触れ、今後の文献研究の基礎を身に付けます。  
教育人間学研究の上で欠かすことのできない必須の基礎的文献の紹介も行います。最新の研究と古典の成果の両方に触れ、この分野の広がりの可能性と基礎力の重要性を認識してください。

#### 「教育人間学基礎講読」(コア科目 登録必修)

- ・文献の精読を通じて、文献の読解法を学びます。  
教育人間学関連の主要文献の精読を行います。
- ・文献調査や文献収集の方法、引用法や注釈の仕方などを習得します。  
将来の卒業論文やレポートの作成に必要な、研究に必要なスキルの教育も同時に行われます。

#### 「教育人間学演習Ⅰ・Ⅱ」(コア科目 Ⅰは登録必修 Ⅱは必修)

- ・指導教員のアドバイスを受けながら、個人で研究する力を身に付けます。  
実習を中心とする体験学習で出会った世界やそこで発見したテーマを、各自が個人レベルで探究していきます。後述する講読科目や研究法科目で培った能力を生かして先行研究を調べ、自らのテーマにふさわしい研究法を駆使しながら研究を進めます。
- ・「卒業論文」完成への知識と研究法を学びます。  
最終的にはその成果が「卒業論文」に結実させていきます。

このように自己の心と身体を体験学習に投与し、その中で自らの生きた人間観や教育観を見出し育んでいくことが、教育人間学専攻の小集団教育のねらいなのです。

#### 「テーマリサーチ型ゼミナール」

テーマリサーチ型ゼミナールは、2003年度からスタートした、文学部が擁する従来の枠組みでは捉えきれない人文学のあらたな分野やテーマ、アプローチを、ゼミ形式で大胆に実践していく、まったく新しい形態のゼミナールです。21世紀の「知」のグローバル化を目指して、人文学に共通する普遍的なテーマ、特定地域を多面的にリサーチしうるテーマ、現在進行形のタイムリーなテーマ、新世紀の社会に直結する実践、実習的テーマなど、現代社会が人文学に求める革新的なテーマを設定します。また、テーマリサーチ型ゼミナールでは革新的・斬新なテーマを追求するためにも、常にゼミテーマを見つめ直しています。3回生のゼミ選択の際には、卒業時(4回生)にどのようなテーマで研究をし、卒業論文執筆をしたいかといった事を考え、ゼミを選択します。その際、自専攻のゼミ、テーマリサーチ型ゼミナールといった選択肢の中で自分に適するゼミを選んでください。テーマリサーチ型ゼミナールでどのようなテーマのゼミが開講されているのかはシラバスで確認をしてください。以下に2011年度、

3 回生ゼミのいくつかを記しますので是非参考にしてください。

2011年度3 回生ゼミテーマ

例) 「説き方の表現と教育心理学」、「中国映画から現代中国の文化を考える」、「THEMES IN ASIAN STUDIES」

## 2. 概論科目

「教育人間学概論Ⅰ～Ⅵ」(コア科目 2科目登録必修)

・教育人間学を学ぶ上での基礎学力を身に付け習得します。

教育人間学の一般的な概説から学び、将来の研究方向を見定めるための基礎学力を養っていきます。

・各領域の特徴を理解します。

「人間形成」、「臨床教育」、「心理健康」の3つの主要な関連領域が取り組むべき研究対象・研究内容・研究方法について、それぞれの立場の教員の講義を通して理解を深めます。

「学校カウンセリング論Ⅰ・Ⅱ」(P.29参照)

・学校カウンセリングの理論と実際を学んでいきます。

生徒の心を深く理解し、よりよい生き方とともに模索するために、現代の教育現場における様々な問題を取り上げ、多くの事例に基づいてそれらを検討します。将来、スクールカウンセラーを目指している皆さんはもちろんのこと、教育の現場で何が起こっており、その問題の本質は何であるのかを、深く学んで頂きたいと思えます。

## 3. 実習・方法論科目

前述のとおり、本専攻では実際の教育臨床現場で対応できるだけの十分な能力を身につけるために、実践的科目である実習科目を大変重視しています。

「教育人間学実習Ⅰ・Ⅱ」(コア科目 Ⅰは必修 Ⅱは登録必修)

・体験を通して「人間とは何か」について学びます。

「人間形成」「臨床教育」「心理健康」の3領域にわたる教員と学生が、ともに実験や実習に基づく考察や訓練による体験的・実践的知識と技能の習得を行います。

「教育人間学研究法Ⅰ～Ⅵ」(P.29参照)

・3つの領域それぞれに必要な研究方法を習得します。

各担当教員指導のもとに行われます。カウンセリングやボディ・ワークの実習、心の健康に関わる実験法などの教室を中心にしたものから、分野によってはフィールドでの研究や実習も計画されています。

・卒業論文作成に必要な専門技能を身に付けます。

皆さんの関心や将来の卒業論文の作成に向けて必要とされる専門技能を習得するために、計画的に履修され、1 回生時よりさらに高度な研究能力を培って下さい。

## 4. 特殊講義・外書講読科目

「教育人間学特殊講義Ⅰ～Ⅵ」(P.29参照)

・教育人間学関連領域について、より深く詳細に学んでいきます。

それぞれの授業担当者の専門領域に関わる詳細な講義が展開されます。「人間形成」、「臨床教育」、「心理健康」の3領域ごとに、皆さんは興味ある分野の知見に専門的にアプローチすることができます。より高度で緻密な学問知識と研究スキルの習得を目指してください。

「教育人間学外書講読」

・専門領域の外国語文献を読めるようになります。

直接原著を精読し、外国語で教育人間学関連領域の文献が読めるようになるための指導をします。外国語の不得手な皆さんは苦手意識を払拭するためにも、ぜひ1 回生時から英語を中心とした外国語学習に積極的に取り組み、準備を整えておいて下さい。

## 5. 卒業論文（必修）

卒業の要件として、4回生時に卒業論文を提出し、その内容が十分なものとして認められなくてはなりません。そのためには1回生の時から、教育人間学についての知見を深め、研究能力を養う必要があります。そして、創造性豊かな論文にするためには、普段からの「心の教育」についての関心や取り組みが、大きな意味をなしてきます。

「心の教育」について、入学以来研鑽してきたテーマを理論的、実践的、実験的に研究し、まとめあげる4年間の集大成がこの卒業論文と言えるのです。

## 5 研究入門について

### 1. 研究入門の位置付けおよび研究発表と自主ゼミの持ち方

#### (1) 研究入門とは何か

立命館大学の文学部では、主として人文科学の研究領域に関する専門的な知識や技能を習得することを目標としており、そのために小集団教育を実施しています。

教育人間学専攻の場合、1回生の研究入門、2回生の基礎講読・実習Ⅰ、3回生の実習Ⅱ・演習Ⅰ、4回生の演習Ⅱというゼミ形式の授業を通して、自主的な学習態度の養成や専門的な研究方法の習得を目指しています。そして、それが入学してから卒業するまでの在学中に学習したあらゆる知識・経験・技能の集大成として作成される卒業論文に結実するのです。

したがって、この研究入門は皆さんの専門教育の第一歩として、また、皆さんが初めて教育人間学という学問に出会う場として、非常に重要な意味を持っています。

#### (2) 教育人間学研究入門の進め方

それでは、具体的に教育人間学研究入門がどのように進められるのかを説明していきましょう。まず、今年度の授業には、①教員の研究発表、②上回生の研究発表、③学生のグループ別の研究発表、④文献指導といった、大きな4つの柱があります。

以下、それらを順に解説します。

#### ①教員の研究発表

本専攻では、人間形成、臨床教育、心理健康といった密接に連携した3つの履修プログラムが用意されており、それぞれに2名ずつの専任教員が配置されています。

これらの教員が各自の専門とする研究領域の紹介をかねて、まず、皆さんに最新の研究成果を紹介する予定です。ここでは各教員が独自の問題意識と方法論によってどのように教育と人間とにアプローチしているのかをしっかりと味わって欲しいと思います。

#### ②上回生の研究発表

教員の研究発表が終わると、次に各領域の上回生が、自己の卒業論文の内容をはじめ、各領域でのゼミの様子を、皆さんに紹介します。自己の問題意識をどのように育て、それをどのような方法によって研究の形に仕上げようとしているのか等が、目下、卒業論文に取り組んでいる本人から紹介されます。論文作成上のヒントやコツを学び、ゼミに関する生の声を聞く良い機会になると思います。

#### ③学生グループ別の研究発表

教員と上回生の研究紹介が一通り終わったら、今度は皆さんが数人ずつの小グループに分かれて、人間形成、臨床教育、心理健康といった3領域の中からグループごとにテーマを選択し研究発表を行います。その際、グループ編成とテーマの設定、研究発表の準備のために数回の授業が当てられ、その後、グループ別にそれぞれの研究成果を発表します。

おそらく皆さんにとって初めての経験となるのがこのグループ別の研究発表だと思います。そこで、これについ

でもう少し詳しく説明します。

まず、クラス全体を人間形成、臨床教育、心理健康のそれぞれの領域をテーマにするグループに分けます。

次に、グループごとに選択したテーマに沿って、文献を調べ、討議を重ね、最終的にレジюмеを作って、研究発表に臨まなければなりません。ここでいうレジюмеとは、担当者が調べたことや考えたことを、まとめて書き記したものです。作成についての疑問点は、助手やティーチングアシスタント（以下、TAと略称）に相談して下さい。

また、レジюмеの原稿が完成したら、クラス全員と教員に配布するために印刷しなければなりません。その際、文学部事務室（清心館1F）に置いてある「小集団クラス印刷申請書」に、指導教員のサインをもらって、事務室に行き、所定の手続きをして、清心館1F談話室横の印刷室の鍵をもらいます。その際、事務室に学生証を預けなければなりません。印刷終了後は、速やかに鍵を返却します。（履修要項参照）

発表当日は、あらかじめ担当者を決め、発表練習をしたうえで、本番に臨みます。さらに、指定討論者等に指名されている場合は、レジюмеをよく読み、簡潔に意見や疑問点を述べるようにして下さい。

#### ④文献指導

各教員が、教育人間学の研究に必須の基礎的な文献だと考えるものを紹介します。皆さんには、初めから一つだけの領域に限定せず、人間形成、臨床教育、心理健康といった3分野すべてについて幅広い教養と基礎学力を身につけて欲しいと願っています。

#### (3) 自主ゼミについて

自主ゼミとは、学生有志でつくる自主的な勉強会のことです。メンバー同士で都合の良い日時（放課後や休日など）や場所（共同研究室や図書館など）を決め、レジюмеを作成して発表し、お互いに研鑽を積みます。

大学では、このような学生の自主的な活動に対して援助をしており、登録をすると、コピーカードと印刷用紙の補助を受けることができます。登録申請は、前期と後期の2回行われています。詳細は文学部事務室まで、問い合わせてください。（履修要項参照）

## 2. レジюме・資料の作り方（レジюме見本）

大学におけるゼミ形式の小集団授業では、様々な研究発表が行われます。その際、発表担当者はレジюмеや資料を作ることが多くなります。

教育人間学研究入門では、グループ別の研究発表において、担当者はレジюмеを作成して発表に臨むことは既に述べました。

ここでは、例として心理健康分野の場合を取り上げ、レジюмеや資料の作り方のポイントを紹介したいと思います。

#### (1) タイトル・サブタイトル

レジюмеには、研究発表の内容を簡潔に表すタイトルをつけます。必要ならば、サブタイトルをつけてもよいでしょう。一読してその発表に興味を抱かせ、関心を喚起するようなタイトルを、グループでよく相談してつけて下さい。

#### (2) 発表担当グループ名者名・発表年月日

レジюмеには、担当グループ名と発表者全員の氏名を記しておきます。さらにその発表が行われる年月日も記します。

#### (3) イントロダクション（はじめに）・研究の目的

発表の導入には、なぜそのようなテーマで研究するに至ったのかという理由や、その研究が目指しているものなどを述べると、発表全体の内容が予想でき、わかりやすくなると思います。ただし、これらは、人間形成、臨床教育、心理健康の分野ごとに、また、その研究発表の内容や質によって異なってくると思われます。それぞれのグループごとに色々と工夫して欲しいと思います。

#### (4) 先行研究の紹介

選んだ研究テーマが、それまで他の研究者によって研究されている場合は、現在までのその分野の研究の成果や到達点を、わかりやすく紹介する必要があります。そのような作業を通して、今、何が問題とされているのかが

明らかにされてきます。

#### (5) 問題の所在

これまでの作業を通して、今回のグループ研究で明らかにしてみたい問題課題がはっきりしてきたと思います。それに誰にでもよくわかる文章で記述して下さい。皆さんのグループの独自の視点や取り組みの方法などが問われるところです。

#### (6) 方法

先に明らかにした問題（研究課題）に、どのような方法で取り組もうとしているのかを記します。ただし、研究入門の最初の発表では、実際に実験や調査の計画を立て、それらを実施することには、様々な制約があるかもしれません。その場合は、指導教員等に相談して、グループ研究の範囲を決定してください。

#### (7) 結果

研究の結果を記します。図表を用いて、わかりやすいまとめ方を工夫が要求されます。また、実験などの場合には統計的な検定の結果も記す必要があります。

#### (8) 考察

研究の結果が、何を意味するのかを議論するところです。様々な解釈の可能性の中から、なぜ自分たちのグループがそのような結論を導いたのかを説明しなければなりません。また、予想される批判に対する反論や、今後の課題等にも触れておきましょう。

#### (9) 参考文献

最後に、この研究で参考にした図書を所定の様式にしたがって記しておきます。参考文献の記し方については、人間形成、臨床教育、心理健康の各分野ごとに多少の違いがあります。それぞれの分野に相応しい記述の方法を、助手やTAの指導を受けて身につけて下さい。本冊子の23、24ページの記載方法も参照して下さい。

#### (10) 資料の配付

必要な資料があれば、レジュメとともに印刷し、発表の際に配付して下さい。

以上、心理健康領域の内容を例にとって、レジュメの書き方を説明してきましたが、あまりこのような枠にとらわれずに、わかりやすい書式を、各グループで工夫しながら生み出してみてください。ただし、用紙はA3（1枚）に統一して下さい。資料については枚数を問いません。

また、1回生の早い時期からパソコンのワープロソフトの使用に慣れておくと、ページ数の多いレポートや卒業論文作成の際に、大変便利です。

最後に、次ページにレジュメの見本を示しておきます。

## ストレスとは何か

立命 太郎 衣笠 春子  
草津 夏子 別府 次郎  
(心理健康1グループ)

### はじめに

私達は日常生活の中で「ストレス」という言葉を頻繁に用いている。そのストレスとは心理学ではどのように定義されているのだろうか。どのようなタイプがあるのだろうか。その対処にはどのような方法があるのだろうか。それが今回の私達のグループのテーマである。

### ストレスの定義

ストレスとは何かを正確に定義することは難しい。ここでは、セリエの定義を紹介する。「ストレスとは、生体外から加えられた各種の刺激や圧力によって、体内に生じた障害と防衛の総和である (Selye,1936)。」

### ストレス研究の歴史

#### ① キヤノンのホメオスタシス説

キヤノン (1929) は生物に備わる外部の環境刺激に適応し、体内の条件を一定に保つ仕組みをホメオスタシス(homeostasis)と名付けた。ストレスは、このホメオスタシスを保つための一種の生体反応といえる。

#### ② セリエのストレス学説

セリエ(1936)は、精神的有害刺激の関与により引き起こされる一連の生体反応をストレスと呼んだ。ストレス状態における生体の適応現象を適応症候群と呼び、原因がどのようなものであれ、常に同じ全身的反応として起こるものを「汎適応症候群」、直接刺激を受けた局所の反応として起こるものを「局所反応症候群」と名付けて区別した。

#### ③ ラザルスのストレス学説

ラザルスは、ストレスの過程を一次的認知評価と二次的認知評価という概念を用いて説明した。また、ラザルスは、個人の対処行動を、問題中心的であるか、情動中心的であるかなどにより8類型に分類している。

## 見本

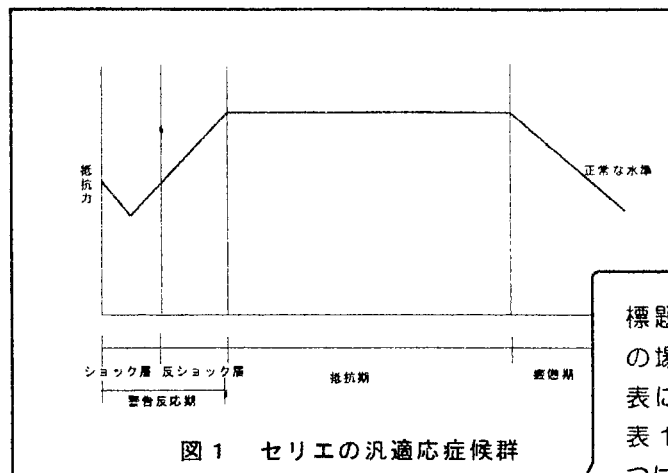


図1 セリエの汎適応症候群

標題は、図の場合は下に、表の場合は上に記述します。図表には必ず、図1、図2…、表1、表2…のように番号をつけます。

表1 ラザルスのストレス対処行動8類型

1	対決型	問題状況を解決するために積極的に行動し、努力するタイプ
2	距離を取る型	直面している問題から目を背けるタイプ
3	自己コントロール型	内的な感情や行動を表さないようにするタイプ
4	社会的支援模索型	他人にアドバイスを求めるタイプ
5	責任受容型	その事態の責任を自分のものとして受け止め、反省するタイプ
6	逃避型	直面している問題を避け、アルコールや薬物に依存したり、他人に当たり散らしたりするタイプ
7	計画型	事態を解決するために、計画的に方法を検討して対応するタイプ
8	肯定的評価型	今ある困難を人生の課題としてとらえ、現在の自分をよりよいものにするための糧にしようと肯定的にとらえるタイプ

参考文献は、編著者名のアルファベット順に並べます。

## 参考文献

- Cannon, W.B. (1929). Organization for Physiological homeostasis. *Physiol.Rev.*,9,399-431.  
 河野友信 (1986). ストレスの科学と健康 朝倉書店  
 ラザルス, R.S. & フォルクマン, S., 本明寛・春木豊・織田正美 (監訳) (1991). ストレスの心理学——認知的評価と対処の研究. 実務教育出版  
 Selye, H (1936). A syndrome by diverse noxious Agents. *Nature*,138,32.

### 3. レポート・論文の書き方

#### (1) はじめに

大学の授業では日常的に多くのレポートが課されます。また、文学部の学生は4年間の大学生活の集大成として、卒業論文（原稿用紙30枚以上）を書くことになっています。

また、大学を卒業し社会に出れば、業務報告書や指導報告書など様々な文書を作成する必要があります。ですから、ぜひ皆さんには授業を利用してしっかりと文章作成能力を身につけていただきたいと思います。

#### (2) レポート・小論文を書く為の手順

##### ①資料の収集

レポートや小論文を作成するには関係する資料の収集が不可欠です。手に入る限りの資料を集めましょう。手始めに後述する参考書欄で挙げられている書物を読んだり、文献資料室や図書館を利用してみましょう。文献検索の方法がわからなければ、助手やTAに質問しましょう。また、図書館が主催する文献検索講習会で学ぶのも良いでしょう。

##### ②資料の検討とテーマの絞り込み

次に、集めた資料を整理し内容を検討することが必要です。書かれた内容を正確に理解し、わからない箇所は教員の指導を受けながら、作業を進めましょう。くれぐれも、自己流の「勝手読み」で、自分に都合のいいように解釈することは避けましょう。

また、教育人間学専攻で扱う文献には、英語・独語・仏語で書かれているものもあります。1回生から、しっかりと外国語に取り組み、基礎文献を読みこなすための力を蓄えていきましょう。

また、テーマを絞り込むことも大切な作業です。テーマをしっかりと定めて、それについて詳しく論じることが大切です。一度に多くのことを取り上げると、まとまりがなく、何を主張したいのか分からないレポートや小論文になってしまいます。

以上、レポートや小論文の作成には十分な下準備をした上で執りかかきましょう。

##### ③執筆

実際の執筆に先立って、まず、全体のアウトラインを考えます。その際、どのように論旨を展開すれば、読者に自分の主張を明確に伝達できるかをよく考え、文章全体の構成を決めます。話の順序が変われば、それを読む時の印象や説得力も大きく変化します。よく考えた上で、全体の構成を決めましょう。

構成が決まったら、いよいよ執筆です。執筆の際、特に強調したいのは、「自分自身の言葉を使って書く」ということです。最初のうちは下手でもかまいません。自分の文章を書く、という訓練を積みましょう。

また、レポートや小論文によっては、他の研究者の書物や論文から膨大な引用をしておきながら、そのことを全く明記していないものに出会うことがあります。引用は必ず出典を明らかにしておいて下さい。特に、他人の考えを紹介する場合には、その要点を要領よくまとめます。やむを得ず、文章をそのまま引用する場合は、どこからどこまでが引用部分なのかをはっきりと分かるように記します。引用・要約・紹介の全てにおいて、その著書や論文の情報を明記する必要があります。

##### ④推敲

レポートや小論文を書き上げた後は余裕があれば少し時間をあけて、もう一度見直し、推敲し、必要があれば何度か書き直します。その際、以下の点に留意します。

###### \*誤字・脱字の確認

くれぐれも誤字・脱字のないように気をつけましょう。

###### \*主述のねじれ・言葉の係り受け

もう一度、自分が書いた文章を丁寧に読んでみます。主語と述語が一致しない場合や、同じ内容を繰り返してみたり（同語反復）、言葉の係り受けがおかしかったり、という場合があります。

###### \*パソコンやワープロを使って文章を作成した場合には印刷した原稿で推敲する

画面上ではなかなか誤字や脱字を発見しにくいものです。また、原稿が印刷されると、どのような印象を与えるかを知るためにも、印刷して見直すことを奨めます。

### (3) おわりに

以上、レポートと小論文の書き方について説明しました。より詳細にレポートや論文の書き方、文献検索やプレゼンテーションの方法などを知りたい場合は、下記の関連図書リストを参考にしてください。

- ベッカー, H. S. 『論文の技法』 講談社 1996年  
 江川純 『レポート・小論文の書き方』 日本経済新聞社 1998年  
 浜田麻里・平尾得子・由井紀久子 『大学生と留学生のための論文ワークブック』 くろしお出版 1997年  
 石坂春秋 『レポート・論文・プレゼンスキルズ』 くろしお出版 2003年  
 河野哲也 『レポート・小論文の書き方(第3版)』 慶應義塾大学出版会 2002年  
 慶應義塾大学日吉メディアセンター(編) 『情報リテラシー入門』 慶應義塾大学出版会 2002年  
 三浦香苗他(著) 『アカデミック・プレゼンテーション入門』 ひつじ書房 2006年  
 成川豊彦 『文章の書き方』 PHP研究所 1998年  
 讃岐美智義 『研究者のための文献管理PCソリューション』 秀潤社 2005年  
 讃岐美智義 『EndNote活用ガイド デジタル文献整理術(第3版)』 克誠堂出版 2007年

## 4. 参考文献

### 教育人間学専攻教員による共著

- 斎藤稔正・林信弘(編) 『教育人間学の挑戦』 高菅出版 2003年  
 斎藤稔正(編) 『行の人間学』 高菅出版 2005年  
 林信弘(編) 『愛の人間学』 高菅出版 2007年

### (1) 専門学習における入門用

#### ①人間形成領域

- 江川びん成他(編) 『教育キーワード137(第12版)』 時事通信社 2007年  
 原ひろ子 『子どもの文化人類学』 晶文社 1999年  
 永井均 『子どものための哲学対話—人間は遊ぶために生きている—』 講談社 1997年  
 大田堯 『教育とは何か』 岩波書店 1990年  
 柴田義松 『教育学を学ぶ—発達と教育の人間科学—』 学文社 2000年  
 田中智志 『教育学がわかる事典』 日本実業出版社 2003年  
 鳥山敏子 『いのちに触れる—生と性と死の授業—』 太郎次郎社 1985年

#### ②臨床教育領域

- 春日井敏之 『自分らしく思春期—いじめ・登校拒否をこえて』 かもがわ出版 1997年  
 村山士郎 『子どもの攻撃性にひそむメッセージ』 柏書房 1999年  
 中川吉晴 『気づきのホリスティック・アプローチ』 駿河台出版社 2007年  
 中野民夫 『ワークショップ』 岩波書店 2001年  
 佐藤学 『学び—その死と再生』 太郎次郎社 1995年  
 高垣忠一郎 『揺れる子どもの心と発達』 かもがわ出版 1998年

#### ③心理健康領域

- 国分康孝 『カウンセリングの理論』 誠信書房 1980年  
 河野友信・田中正敏(編) 『ストレスの科学と健康』 朝倉書店 1986年

河野友信（編） 『心身医学のための心理療法と心身医学的療法』 朝倉書店 1990年  
野口京子 『健康心理学』 金子書房 1998年  
シュルツ, D. 『健康な人格』 川島書店 1982年  
イーガン, G. 『カウンセリング・テキスト』 創元社 1998年

## (2) やや専門的なもの

### ①人間形成領域

森昭 『人間形成原論』 黎明書房 1998年  
土戸敏彦 『冒険する教育哲学』 勁草書房 1999年  
矢野智司・鳶野克己（編） 『物語の世界—「物語ること」の教育学—』 世織書房 2003年  
やまだようこ（編） 『人生を語る—生成のライフストーリー—』 ミネルヴァ書房 2000年  
梅原猛 『笑いの構造』 角川書店 1981年  
林信弘 『『エミール』を読む—ルソー教育思想入門』 法律文化社 1987年  
林信弘 『新版 教育の哲学的探求—アイデンティティを求めて』 法律文化社 1992年  
上田閑照（監） 『人間であること』 燈影社 2006年  
林信弘（著） 『意識の人間学』 人文書院 2007年

### ②臨床教育

アームストロング, T. 『光を放つ子どもたち』 日本教文社 1996年  
上里一郎（監） 『思春期の自己形成—将来の不安の中で—』 ゆまに書房 2006年  
窪島務 『現代学校と人格発達』 地歴社 1996年  
ミラー, J. 『ホリスティック教育』 春秋社 1994年  
中川吉晴 『ホリスティック臨床教育学』 せせらぎ出版 2005年  
高垣忠一郎・春日井敏之 『不登校支援ネットワーク』 かもがわ出版 2004年  
ウィルバー, K. 『万物の歴史』 春秋社 1996年  
吉田敦彦 『ホリスティック教育論』 日本評論社 1999年

### ③心理健康

エレンベルガー, A. 『無意識の発見 上・下』 弘文社 1980年  
丸田俊彦 『サイコセラピー練習帳』 岩崎学術出版 1986年  
丸田俊彦 『Dr. Mへの手紙』 岩崎学術出版 1988年  
日本健康心理学会（編） 『健康心理学基礎シリーズ（全4巻）』 実務教育出版 2002年  
大塚義孝他（編） 『臨床心理学全書（全13巻）』 誠信書房 2004年  
ロッシ, E. L. 『精神生物学』 日本教文社 1999年  
斎藤稔正 『新版 催眠法の実際』 創元社 2009年  
高橋哲郎 『子どもの心の精神病理』 岩崎学術出版 1988年  
ワイナー, I. B. 『心理療法の諸原則 上・下』 星和書店 1984年  
ゼイク, J. K. 『21世紀の心理療法 I・II』 誠信書房 1989年

### ④研究法関連

秋田喜代美・藤江康彦（編） 『はじめての質的研究法 教育・学習編—事例から学ぶ』 東京図書 2007年  
APA（アメリカ心理学会） 『APA論文作成マニュアル』 医学書院 2004年  
フィンドレイ, B. 『心理学 実験・研究レポートの書き方』 北大路書房 1996年  
石村貞夫 『すぐわかる統計処理』 東京図書 1994年  
石村貞夫 『SPSSによる統計処理の手順（第4版）』 東京図書 2004年  
小塩真司 西口利文（編） 『質問紙調査の手順（心理学基礎演習 Vol. 2）』 ナカニシヤ出版 2007年  
杉本敏夫 『心理学のためのレポート・卒業論文の書き方』 サイエンス社 2005年

田中敏・山際勇一郎 『ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法（第2版）』 教育出版 1992年  
 クーパー, A. M. 『ヘルスケアに活かすアクションリサーチ』 医学書院 2005年 など

### (3) 専門雑誌（月刊誌など）

教育現場、臨床現場での最新の情報は、月刊誌などを参考にするとよいでしょう。

『教育』 国土社  
 『生活指導』 明治図書  
 『児童心理』 金子書房  
 『こころの科学』 日本評論社刊行（隔月刊）  
 『現代のエスプリ』 至文堂 など

この他、専門領域ごとに多数の学術雑誌（和文・英文ジャーナル）があります。それらの雑誌の多くは図書館や人文系文献資料室等に配架されていますが、本学に無い場合でも、図書館のインフォメーション・カウンターを通じて、他大学からコピーを取り寄せること（有料）ができます。適切な雑誌が不明な場合は、指導教員に相談したり、データベース検索を行ったりするとよいでしょう。図書館では文献検索の講習会が定期的に行われていますので、是非利用してみてください。

### (4) 辞書・事典類

実験実習準備室には、教育人間学に関連する辞書・事典類（哲学・教育学・心理学・宗教学・社会学・医学・語学分野など）が数多く設置されています。研究発表やレポート作成などに利用してください。

廣松渉他（編） 『岩波 哲学・思想事典』 岩波書店 1998年  
 E. デイヴァイン他（編） 『20世紀思想家事典』 誠信書房 2001年  
 教育思想史学会（編） 『教育思想事典』 勁草書房 2000年  
 寺崎昌男 『教育名言辞典』 東京書籍 1999年  
 遠藤克弥（監） 『新教育事典』 勉誠出版 2002年  
 藤永保・仲真紀子（監） 『心理学辞典』 丸善 2004年  
 中島義明他（編） 『心理学辞典』 有斐閣 1999年  
 氏原寛他（編） 『心理臨床大事典（第2版）』 培風館 2004年 など

## 5. 共同研究室の利用について

教育人間学専攻共同研究室は、研究や発表の準備をする場所として提供され、教育人間学専攻の学生なら誰でも利用できることになっています。また、様々な回生の人と交流できる場所でもあります。

しかし、あくまでも研究室であり、談話室とは異なりますので、その点に留意してマナーを守って使用しましょう。

### (1) 場所

啓明館2階にあります。

### (2) 使用時間と鍵

使用できる時間は、原則として清心館1階の文学部事務室が開いている時間（9:00～17:00）です（17:00以降は、深夜延長届が必要です）。鍵は文学部事務室で管理しています。使用する場合は、事務室に鍵の入った箱がありますので、横の貸出帳に自分の氏名・学生証番号・貸出時間を記入の上、鍵と自分の学生証を交換して借ります。借りた鍵は、ドアの横にある鍵掛けに掛けておきます。研究室に誰もいなくなる時は必ず施錠してください。

返す場合も同様に、貸出帳に返却時間を記入の上、鍵と学生証を交換してください。事務室が昼休みなどで閉まっている時間帯は、開くまで待ち、絶対に鍵を持ち帰ることのないようにしてください。

原則として、鍵を借りた人が共同研究室を出る時は、他の人と学生証を交換して貸出帳に記入することになって

いますが、もし研究室を閉めて鍵を返却したときに他人の学生証が箱に入っていたら、学生証はそのままにして鍵を返却してください。

夜遅くなって事務室の開室時間を過ぎてしまった場合には、17時から21時30分までは敬学館事務室、21時30分以降は至徳館の東側にあるキャンパスインフォメーションに鍵を持っていきます。本人が借りた鍵であれば、すぐに学生証を返却してもらえますが、他人が借りた鍵である場合は、学生証は事務室で預かることになります。その場合は、翌日以降事務室で返却されますので、学生証の持ち主は忘れずに受け取りに行ってください。

### (3) 書籍について

共同研究室の書籍は共通の財産ですので、大切に扱いましょう。それらの書籍は、研究室内では自由に使うことができますが、すべて貸出禁止です。

### (4) パソコンについて

共同研究室のパソコンは、ワープロソフトや表計算ソフトが入っていますので、研究発表会のレジュメ作りや卒業論文作成に使用することができます。インターネット閲覧やメール送受信なども可能です。

パソコンで自分の資料を作った場合は、必ずファイルはUSBメモリ等に保存して持ち帰り、パソコンの中に残しておかないようにしてください。また、使用後元電源を切るのを忘れないようにしましょう。

### (5) その他の注意事項

- ・研究室内は禁煙です。また、飲食も控えることになっています。
- ・研究室内での携帯電話の使用は禁止です。使用する場合は廊下へ出てください。
- ・あくまで研究室であり、また近隣の教室では授業が行われています。大声での談笑、騒音は慎んでください。
- ・盗難防止のため、荷物を置いたまま研究室を離れることのないようにしましょう。その他、後片付けなどマナーを守って、皆が気持ちよく使えるよう心掛けましょう。
- ・掃除機が設置されているので、利用者が清掃して下さい。

## 6. 助手・TAについて

助手とTA（ティーチング・アシスタント）は共同研究室や実験自習室の管理、研究入門の事前指導や実習科目の補助などをします。

助手は専任の実習助手1名がおり、学生の学術面のサポートのほか、専攻に関する仕事などをしています。TAは博士前期課程（マスター）以上に属する大学院生で、主に実習Ⅰ・Ⅱについて学生の学術面のサポートをします。

学術面で分からないこと（資料の検索の仕方、文献の使い方など）があれば、気軽に相談してください。

## 6 卒業論文

卒業の要件として、4回生時に卒業論文を提出し、査読と口頭試問を通じて、その内容が十分なものとして認められなくてはなりません。そのためには1回生の時から、教育人間学についての知見を深め、研究能力を養う必要があります。そして、創造性豊かな論文にするためには、普段からの「人間と教育と心」についての学術的関心を研ぎ澄まし、掘り下げていくことが大切です。

「人間と教育と心」をめぐる問題にかかわって、入学以来研鑽してきたテーマを文献読解、観察・調査、実験などの方法を駆使して考察し、まとめあげる4年間の研究の集大成がこの卒業論文と言えるのです。

### 1. 卒業論文の体裁について

卒業論文を執筆するにあたって、本専攻では取り組む内容によって作成の書式と形式（構成）が異なります。2つのうちのどちらの書式と形式（構成）がふさわしいかを指導教員と相談の上、執筆にとりかかってください。

また、卒業論文は、正本1部、副本1部の計2部を提出してください。副本は、正本のコピーでかまいません。

卒業論文の表紙は12月上旬に専攻から配付しますので、購入する必要はありません。必ず所定の期間内に受け取ってください。

## 2. 論文の書式

### 【書式1】（主に「人間形成」・「臨床教育」領域の論文、図表の少ない論文）

- ◆原稿用紙に手書きする場合 A4判400字詰め原稿用紙。縦書きの場合は横長に、横書きの場合は縦長にする。  
縦書・横書の指定：指定なし。  
枚数等に関する指定：30枚以上50枚以下（「要約」、「目次」、「謝辞」、「参考文献」、「資料」は枚数に含まない）。  
その他の注意：黒または青のペンを使用すること。
- ◆ワープロを使う場合 A4判白紙に黒文字印刷。縦書きの場合は横長に、横書きの場合は縦長にする。  
縦書・横書の指定：指定なし。  
文字数に関する指定：1行あたりの文字数：40字。1頁あたりの行数：30行（1200字）。  
枚数等に関する指定：10枚以上・実文字数20000字以内（「要約」、「目次」、「謝辞」、「参考文献」、「資料」は枚数に含まない）。
- ◆表紙 詳細は、各ゼミを通じて告知する。  
綴じ辺：A4版用紙に縦書きする場合のみ短辺（右辺）綴じ。その他の場合は長辺綴じ。

### 【書式2】（主に「心理健康」領域の論文、図表の多い論文）

- ◆原稿用紙に手書きする場合 A4版400字詰原稿用紙。  
縦書・横書の指定：横書  
枚数等に関する指定：30枚以上50枚以下（「要約」、「目次」、「謝辞」、「参考文献」、「資料」は含まない）。  
その他の注意：黒または青のペンを使用すること。
- ◆ワープロを使う場合 A4版白紙に黒文字印刷（縦長）  
縦書・横書の指定：横書  
文字数に関する指定：1行あたりの文字数：40字、1頁あたりの行数：20行（800字）。  
枚数等に関する指定：図表を含め、15枚以上25枚以内（「要約」、「目次」、「謝辞」、「参考文献」、「資料」は含まない）。
- ◆表紙 詳細は、各ゼミを通じて告知する。  
綴じ辺：長辺綴じ。

## 3. 論文の形式（構成）

### 【形式1】（主に「人間形成」・「臨床教育」領域）

#### ◆論文の構成

提出する論文の構成は、表紙（タイトルと著者名）、要約、目次、本文、注、参考文献表の順となる。また、本文のページ番号は忘れずに入れておくこと。

### (1) 表紙

表題、学生証番号、氏名を記す。表題は論文の内容をわかりやすく記述したものであること。抽象的・一般的な題は避けるようにする。主題、対象、方法を察することができるものが望ましい。

### (2) 要約

論文には、要約を添付すること。(400字～800字)

### (3) 目次

各項目のタイトルとページを記すこと。

### (4) 本文

### (5) 注

引用文については引用符(「～引用文～」注1)をつけて、出典(著者、書名、発行所、発行年)を明記すること。翻訳については、原著者と原著のタイトルならびに発行所、発行年も明記すること。注は、本文最後にまとめるか、あるいは脚注をつける形にする。

<例>

(注1) 斎藤稔正・林信弘(編) 『教育人間学の挑戦』 高管出版 2002年 pp. 24-25.

### (6) 引用文献表

### (7) 参考文献表

注とは別に参考文献を挙げる場合には、著者、書名、発行所、発行年を記して、最後にまとめて列挙すること。

(8) 上記(6)(7)をまとめて、引用参考文献表としてもよい。引用文献・参考文献で表の形式は上記(例)を原則とする。

## 【形式2】(主に「心理健康」領域)

### ◆論文の構成

原則として、次のとおりとする。ページ番号は忘れずに入れておくこと。

### (1) 表紙

表題、学生証番号、氏名を記す。表題は論文の内容をわかりやすく記述したものであること。抽象的・一般的な題は避けるようにする。主題、対象、方法を察することができるものが望ましい。

### (2) 要約

論文の要点を簡潔にまとめる(400字～800字)。

### (3) 目次

各項目のタイトルとページを記すこと。

### (4) 序論

テーマを選んだ理由、研究の意義、研究の目的等を記述する。論文に必要な予備知識として、関連する先行研究やテーマについての従来の研究を歴史的経過も含めて記述する。仮説を立てる場合は根拠を論理的に述べた上、最後に記述する。

**(5) 方法**

研究対象、使用した材料・装置、手続き等を記し、同一条件で追試ができるよう記述すること。教示もすべて記述する（長くなる場合は「参考資料」に含めてもよい）。

**(6) 結果**

結果をデータに基づいて、主観や解釈を交えることなく記述する。統計的検定を行った場合は、その結果を明確に提示すること。適切に図・表を用い、わかりやすく表現する。

**(7) 考察**

最初に簡単に結果をまとめたうえ、その解釈を行う。従来の研究結果と比較し、一致・不一致の要因を推測する。また、序論で明らかにした目的が達成されたか、仮説がどの程度支持されたかについても言及する。さらに、研究において残された問題点、改良点、今後の可能性などを記す。

**(8) 引用文献**

引用した文献をすべて記載する。後述の記載形式を参考にすること。図・表を引用した場合も出典を明記すること。

**(9) 参考資料**

本文中には掲載しなかった図表等、読者の理解を進める内容のものがあれば巻末に添付する。

**◆引用文献の表記方法（形式2）**

『日本心理学会 執筆・投稿の手びき』に準ずるものとする。半角・全角の規則にも注意すること。

**(1) 単行本**

①著者名、②発行年（半角）、③書名、④出版社の順に記載する。発行年には括弧とピリオドをつける。

斎藤稔正（1981）. 変性意識状態（ASC）に関する研究 松籟社

**(2) 編集書・監修書（上記とほぼ同様。著者名の代わりに編著者・監修者名を記載。）**

①編著者・監修者名、②発行年（半角）、③書名、④出版社の順に記載する。

斎藤稔正・林信弘（編）（2003）. 教育人間学の挑戦 高学出版

**(3) 編集書・監修書の1章（書物の情報の前に、その1章に関する情報を記載。）**

①その章の著者名、②発行年（半角）、③その章の題名、④編著者・監修者名、⑤書名、⑥出版社、⑦その章の記載ページ（pp.の後にページ数を入れ、最後にピリオドをつける）の順に記載する。

福原浩之（1996）. 行動の周期的変動—運動と認知のウルトラディアンリズム— 細田嗟一（監） 生体時系列データ解析の新展開 北海道大学図書刊行会 pp.769-788.

**(4) 翻訳書（原著情報の後に、翻訳書の情報を改行して“( )”内に記載。）**

①著者名、②発行年（半角）、③書名、④出版社、⑤著者名（姓カタカナ、名イニシャル、全て全角）、⑥訳者、⑦翻訳書発行年（半角）、⑧翻訳書名、⑨翻訳書出版社の順に記載する。

Booth, D. (2005). Story Drama, Canada: Pembroke Publishers Limited.

（ブース, D. 中川吉晴他（訳）（2006）. ストーリードラマ—教室で使えるドラマ教育実践ガイド 新評論）

## (5) 論文

①著者名、②刊行年（半角）、③論文名、④刊行物名（ジャーナル名など）、⑤巻名・号名（コンマの後につける。合名は括弧をつける）、⑥掲載ページ（コンマの後につけ、最後にピリオドをつける）の順に記載する。

福原浩之（1996）. 鼻呼吸のウルトラディアンリズム—新しい測定法による検討—, 心理学研究, 66 (6), 437-442.

\* 次の基準に則り、記載順序を決めること。

- ①著者名（姓）のアルファベット順に並べる。
- ②同一著者のものが複数ある場合は、刊行年の早いものから順に並べる。
- ③同一年に刊行されたものが複数ある場合は、発行年の直後にアルファベットの小文字a、b（半角）を付して区別する。
- ④1文献が2行以上に渡る場合は、2行目以降は全角で2文字分（英文の場合は半角で4文字分）右にずらして記載すること。

### 【記載例】

Booth, D. (2005). *Story Drama, Canada*: Pembroke Publishers Limited.

（ブース, D. 中川吉晴他（訳）（2006）. ストーリードラマ—教室で使えるドラマ教育実践ガイド 新評論）

福原浩之（1996a）. 鼻呼吸のウルトラディアンリズム—新しい測定法による検討—, 心理学研究, 66 (6), 437-442.

福原浩之（1996b）. 行動の周期的変動—運動と認知のウルトラディアンリズム— 細田嵯一（監） 生体時系列データ解析の新展開 北海道大学図書刊行会 pp.769-788.

斎藤稔正（1981）. 変性意識状態（ASC）に関する研究 松籟社

斎藤稔正（編）（2005）. 行の人間学 高菅出版

この他不明な点は、啓明館3階、教育人間学実験実習準備室に設置されている、論文作成用書籍を参考にするとよい。『日本心理学会 執筆・投稿の手びき』も貸し出している。

卒業論文提出までの手続きについては履修要項の「『卒業論文』の提出について」を参照して下さい。

## テーマリサーチ型ゼミナールにおける卒業論文（卒論形式・非卒論形式）の提出について

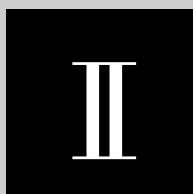
テーマリサーチ型ゼミナールでは、従来のような卒業論文の提出（卒論形式）もありますが、クラスによっては、卒論形式に代えて、共同で制作物（成果物）を仕上げ提出する「非卒論形式」もあります。必ずクラス内で担当教員に、いずれかの形式なのかを確認してから作成してください。

### ◆体裁について

卒論形式で制作の場合	文書体裁	字数：12,000字以上20,000字以下 英文の場合：65ストローク×25行、A4用紙15枚以上30枚以下 ファイル形式・書式・用紙の大きさなど：クラス担当者の指示に従うこと。 必ず <b>2部</b> 提出すること。添付資料がある場合は、添付資料も同様に必ず <b>2部</b> 提出すること。
	表紙等に関する体裁	題目、学生証番号、専攻、プログラム、氏名を必ず記載すること。
	その他の注意	学生本人のみの執筆による単著であること。共同執筆の類はこれに該当しない。
非卒論形式で制作の場合	文書・表紙体裁	体裁についてはクラス担当者の指示に従うこと。 必ず <b>2部</b> 提出すること。添付資料がある場合は、添付資料も同様に必ず <b>2部</b> 提出すること。
	その他の注意	1. 制作物（成果物）には題目、学生証番号、専攻・プログラム、氏名を必ず記載するか添付すること。また、審査教員シールを貼付すること（貼付箇所は自由）。 2. 制作物（成果物）とともに、4,000字以上の個人レポートを提出すること。 ※制作物（成果物）と個人レポートの両方を提出して初めて「卒論提出」となる。 ※個人レポートの表紙裏にも審査教員シールを貼付すること。 3. 口頭試問に相当するものとして、「卒業制作発表会（仮称）」を実施することがある。実施日については、担当教員の指示に従うこと。

◆上記の他の提出に関する諸注意は基本的に履修要項の「『卒業論文』の提出について」に従ってください。





## 科目一覧と履修方法

# 1 科目一覧

## 教育人間学専攻全回生

	1 回生	2 回生	3 回生	4 回生
概 論	教育人間学概論Ⅰ・Ⅱ<人間形成> (各2) 教育人間学概論Ⅲ・Ⅳ<臨床教育> (各2) 教育人間学概論Ⅴ・Ⅵ<心理健康> (各2)			
講 義		教育人間学研究法Ⅰ・Ⅱ<人間形成> (各2) 教育人間学研究法Ⅲ・Ⅳ<臨床教育> (各2) 教育人間学研究法Ⅴ・Ⅵ<心理健康> (各2) 学校カウンセリング論Ⅰ(2)	学校カウンセリング論Ⅱ(2)	
講 読		* #教育人間学外書講読(2)		
特殊講義			#教育人間学特殊講義Ⅰ・Ⅱ <人間形成> (各2) #教育人間学特殊講義Ⅲ・Ⅳ <臨床教育> (各2) #教育人間学特殊講義Ⅴ・Ⅵ <心理健康> (各2)	
小集団・ 実 習	* <u>教育人間学研究入門(4)</u> ：通年	* <u>教育人間学基礎講読(4)</u> ：通年 * <u>教育人間学実習Ⅰ(2)</u> ：通年	<u>教育人間学演習Ⅰ(4)</u> ：通年 * <u>教育人間学実習Ⅱ(2)</u> ：通年	教育人間学演習Ⅱ(4)：通年 *卒業論文(4)：通年

1. 科目名のカッコ内数字は単位数を示します。
2. \*のついた科目は、教育人間学専攻の学生のみが受講できます。
3. #のついた科目は、重複受講ができます。
4. 下線のついた科目は、その回生でしか受講できません。
5. 2004年度・2005年度入学の教育人間学専攻の学生は、上記表以外に「(教)教育心理学Ⅰ」「(教)生徒・進路指導論Ⅰ・Ⅱ」を履修する場合、専攻科目(専門科目)として認定されます。2006年度～2009年度入学の教育人間学専攻の学生は、上記表以外に「(教)教育心理学」「(教)生徒・進路指導の研究Ⅰ」を履修する場合、専攻科目(専門科目)として認定されます。2010年度以降入学の教育人間学専攻の学生は、上記表以外に「(教)教育心理学」「(教)生徒・進路指導の研究」を履修する場合、専攻科目(専門科目)として認定されます。したがって、年間受講登録上限単位数(要卒単位)に算入されます。

## 2 履修方法

**必修科目**（卒業するために必ず単位を修得しなければならない科目）

①	教育人間学外書講読（2回生以上）	2単位必修
②	教育人間学実習Ⅰ（2回生以上）	2単位必修
③	教育人間学演習Ⅱ（4回生以上） ゼミナールⅡ（テーマリサーチ）（4回生以上）	4単位選択必修
④	卒業論文（4回生以上）	4単位必修

**登録必修科目**（必ず登録・受講しなければならない科目）

⑤	教育人間学概論Ⅰ～Ⅵ（1回生以上）	2科目4単位選択
⑥	教育人間学研究法Ⅰ～Ⅵ（2回生以上） 学校カウンセリング論Ⅰ（2回生以上）	2科目4単位選択
⑦	教育人間学特殊講義Ⅰ～Ⅵ（3回生以上） 学校カウンセリング論Ⅱ（3回生以上）	2科目4単位選択
⑧	教育人間学研究入門（1回生のみ）	1科目4単位
⑨	教育人間学基礎講読（2回生のみ）	1科目4単位
⑩	教育人間学実習Ⅱ（3回生のみ）	1科目2単位
⑪	教育人間学演習Ⅰ（3回生のみ） ゼミナールⅠ（テーマリサーチ）（3回生のみ）	1科目4単位選択

**専攻科目以外の登録必修科目**

- ・リテラシー入門（教養科目：2単位） 1回生前期
- ・外国文化講読（第一外国語）（人文科学総合講座：4単位） 3回生通年 ※2008年度以前入学生のみ

※社会人学生の皆さんは、③④以外の必修科目、および登録必修科目はありません。ただし、条件の許す限り、上記の必修・登録必修科目は履修してください。





